

岡崎むかし館通信

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。



秋は気候も良く、フィールドワークに最適です。むかし館は学区探検のお手伝いもしますよ。

郷土の素材いろいろ

ー 活用・教材化へのヒント ー

「鍾馗^{しょうき}」への願い

先日、東蔵前町から真福寺町、滝町の街並みを歩く機会がありました。その時、屋根の上に高さ30cm程の置物が置かれている家が4軒あり、双眼鏡で眺めてみたら、「鍾馗さん」でした。

鍾馗は、主に中国の民間伝承の神です。日本では、疱瘡除けや学業成就に効き目があると言われ、端午の節句に絵や人形を奉納したりする習わしが伝えられています。その図像は、必ず長い髭を蓄え、中国の官人の衣装を着て剣を持ち、大きな眼で何かを睨みつけている姿です。魔除けとして、旗、屏風、掛け軸として飾ったり、屋根の上に鍾馗の像を載せたりします。鍾馗を屋根の上に載せる風習は、近畿を中心に東海地方までと分布は限られるようです。岡崎市周辺では、西尾市、安城市、田原市、蒲郡市、豊田市、幸田町、豊橋市でも確認できました。

屋根に鍾馗を載せるようになった由縁として、以下のような話が伝わっています。

「むかし、ある薬屋が大きな家を建てた際、屋根に大きな鬼瓦を据えたそうです。その鬼瓦を見た、向かいの家の娘が、その鬼に常に睨まれているような気がして夜ごとうなされ、ついには病気になるまで寝込んでしまったのです。家族は病気を治すために、様々な手を尽くしたけれど、一向に良くならないので、向かいの薬屋に、その鬼瓦を取り外してくれないかと頼んだのですが、大金を払って取り付けた鬼瓦なので外すことはできないと断られてしまいました。そこで家族は鬼に勝つ者は何かと考え、中国の伝説に習い、瓦製の鍾馗像を特別に作ってもらい屋根に置いたそうです。すると、娘の病はすっかり回復したと言います。」(京都の町屋で聞いた話)

滝町の3軒の屋根の上に載せられている鍾馗像は、いずれも、造り、表情、刀の持ち方が異なっています。また、各家がなぜ屋根の上に載せたのか、理由ははっきりとしません。鍾馗が瀧山寺の方角を向いていることも何か、京都の町屋の話に関連するかもしれないです。もう少し調べてみたいと思います。今後を楽しみにしてください。【N】



滝町 瓦製の鍾馗像

一 矢作神社周辺一

矢作地区を歩き始めて2年余りが経ちます。矢作神社の南に八幡宮があり、境内に「力石」^{ちからいし}が一つ祀^{まつ}られています。今回は、この力石について報告します。

力石とは一体、何に使ったものなのでしょうか？力石は、若者たちの力試しに用いられる石で、^{おもかる}重軽石、バンブチ、ハカリ石、沖縄ではサシ石と言います。石の形は丸型か楕円型で、重さは60～70kgから200kg近くのものもあるようです。

矢作の八幡宮のモノは、楕円型で「四十^び貫目」と彫られています。40貫目は、現在の標記に直すと150kgになります。また、石の側面に所有者と思われる「東組」という文言が彫られています。

力石の存在が文献の中で明らかになったのは、16世紀に作られた「上杉本洛中洛外図屏風」で、弁慶石の銘を持つ力石が描かれています。また、慶長8年(1603)の『日葡辞書』^{にっぽ}(日本語をポルトガル語で解説した辞典、長崎で編さん)に力石の項目があり、「力試しをする石」と表記されています。さらに、現存する力石(報告されている)で紀年銘があるものとして最古のモノは、寛永9年(1632)であろうとされています。

江戸時代から明治にかけて力石を用いた力試しが全国で催されていたことが想像できます。特に、神社の祭りなどで出し物の一つとして力試しが行われ、若者が周囲の人から一人前になったことを認めてもらう場面でもあったようです。力石を持ち上げた記録として文献に残されている最古のものは、安政6年(1859)5月8日生まれの大和国北葛城郡二上村(現香芝市)在地力士「大の松為次郎」の例です。大の松為次郎は、身長5尺3寸(約160cm)、体重20貫(74kg)であったが、米8斗5升(約154kg)と同じ重さの力石を軽々と持ち上げた、と記録されています。

まだ、地域には数多くの歴史の証人たちが光を当てられるのを今か今かと待っています。地域をじっくりと見つめ直してみましょう。新たな発見があります。【N】

力石「四十^び貫目」の銘

力石「東組」の銘

りぶらで開催した社会科研究作品展・発表会も、多くの先生方のご協力により無事終了。多くの方が展示作品を丹念に見ており、まさに研究作品をとおして、地域を再発見する機会になったと思います。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成26年11月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展「火鉢考」 ～12/9】

次回 【企画展「くらしの道具～今と昔～⑪書く」 12/11～3/10】